研究班番号【 18 】

LGBTsに対する正しい理解のための高校生への教育とは

家庭科班：横山　茉耶

１．はじめに

近年LGBTsという言葉が広く知られている一方、人々のLGBTsに対しての差別的意識や配慮に欠けた態度はあまり変わっていないように感じる。この状況を変えるには、人々が正しくLGBTsについて理解することが必要であり、そのためには、適切な教育が必要だと考えた。私自身が高校生なので対象を身近な高校生への教育に絞り、当事者へのインタビューを通して、どのような方法ならばLGBTsについて高校生に正しく十分に伝えられるかを研究した。

LGBTとはレズビアン（女性同性愛者)、ゲイ（男性同性愛者)、バイセクシュアル（割り当てられた「性別」のあり方とは何らかの意味で異なる性自認をもつ人)、トランスジェンダー（両性愛者）の頭文字である。トランスジェンダーにはFtM（女性から男性へ性別移行を望む人)、MtF（男性から女性へ性別移行を望む人）がある。これら以外にもアセクシュアルやXジェンダーなど、様々なセクシュアルマイノリティがいる。それらを含めて今回はｓをつけた「LGBTs」を用いる。

２．実験方法

LGBTs に関する語句の説明と当事者の現状について説明したパワーポイントとプリントを作成し、「LGBTsについて考える」というタイトルで本校生徒８名に講義を行った。また、事前にLGBTs 支援団体「YAH」代表の堀川ユウキさんへインタビューを行い、その際に撮影したインタビュー映像を講義で用いた。講義後、アンケートを取った。当事者の例としていわゆる「オネェタレント」を用いると､LGBTsのイメージを偏ったものに固定してしまうのではないかと考え、今回の講義内では用いなかった。

≪講義内容≫

・LGBTs, SOGIESCの説明

LGBTについては上記の通りである。

SOGIESC とは、恋愛感情や性的な関心･興味が主にどの性別の人へ向かうかという「性的指向（Sexual Orientation)」、自分がどのような性別であるか、またはないかについての認識「性自認(Gender Identity)」、服装･髪型･仕草･喋り方などの外部的な表現「性表現(Gender Expression)」、染色体・ホルモン値・筋肉量・体毛など生物学的な性別を示す身体的特徴・行動特性「性的特徴(Sex Characteristics)」の頭文字をとったものである。

・ゲイ・バイセクシュアル男性の自殺未遂リスク、

ゲイ・バイセクシュアル男性への調査（2005年調査・有効回答5731票)

自殺を考えたことがある　65.9％・自殺未遂　14.0％・自殺未遂リスクは異性愛男性の5.98倍（ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート 2015 宝塚大学看護学部 日高庸晴教授）

・LGBTsの人口規模（大阪市による調査15,000人へのアンケート有効回答4,285票

LGBTのいずれか…115人（2.7％)、アセクシュアルを含めると142人（3.3％)

「性的指向を決めたくない・決めていない」を含めると352人（8.2％)

・近年のLGBTsに関する事件
ゲイであることを同級生にアウティングされた一橋大学の男性が校舎から転落死した。
J・K・ローリングが反トランスジェンダーの意見を支持した。
・LGBTsを支援する活動
Tunagary Café（つながりカフェ）
レンタルスペースやカフェ、イベントでLGBTQフレンドリーなコミュニティを提供する。
淀川区のコミュニティスペース
性的少数者とその周囲の人が利用できるお茶会のような場所。月３回ほど開催している。
・堀川さんへのインタビュー映像
堀川ユウキさんはFtMのトランスジェンダーで、幼いころからぼんやりと自分の性別に違和感をいだいており、思春期に自覚した。高校２年生のときにトランスジェンダーであることをカミングアウトした。カミングアウト後も周りの友人らはそれまでと変わらず接してくれたことが救いになったそうだ。堀川さんの場合は周りの人々が肯定的だったが、堀川さんの友人のトランスジェンダーは学校の先生の理解のない言動に苦しんだ。堀川さんはひとりで悩んでいる多くの学生と繋がれる場所を作りたいという思いでYAHを設立された。

≪アンケート項目≫
①講義を受けて初めて知ったことはあるか　②以前よりわかったことはあるか
③インタビュー映像を見て思ったことはあるか　④講義を受ける前と後で変化はあるか
⑤改善点、疑問に思ったことなどはあるか

≪アンケート結果≫
①1 年生の時に家庭科の授業で自身のセクシュアリティについての矢印を書いた記憶はあるがSOGIESCという言葉自体は知らなかった・SOGIESCはLGBTだけの特別なものではないこと、ゲイ，バイセクシュアルの男性の多くが自殺しようとしたことがあること、LGBTsの数の多さを初めて知った・sexとgenderの両観点から見たことはあったが、SOGIESCは知らなかった
②LGBTsに関係なく、人への興味が強くなった・大阪市内だけでも性に関する問題を抱える人が多くいるので身近に感じた・具体的な体験談や割合など知ることができた・世の中には自分がまだ知らないような様々な人がいること・LGBTsが意外と多いこと・性というのはLGBTという言葉にも収まらない非常に多様でその人個人として見るべきものなのだということ・(堀川さんのお話から）教師のほうがLGBTsを理解していないこと・LGBTsへの前向きな取り組みが増えているとはいえ、自殺未遂リスクが5.98倍も高いことや、いじめや不登校を経験している人が多く、まだまだ万全な状態とは言えないことがわかった
③堀川さんは学校の先生に話を聞いてもらうなど、やさしい対応をしてもらえていたけれど、堀川さんの友人の話では大人や教師にも理解が及んでいないことがあると生徒も苦しい思いをするのがつらいと思った・LGBTsの人は「自分は男」とか性別に対して強い主張をもっているものと思っていたが、それに反していろいろな葛藤があるのがわかった・FtMのトランスジェンダーを初めて見たので、やはりいろんな人がいるのだと思った・身長差くらいの些細な違いとして扱われたことが本当に救いになったことがよく分かった・当事者たちは他人にどんなふうに見られるかなど、常に意識してしまうのだと思った・性のことで悩んでいる人が自分自身をどう接してほしいと思っているのかが少しわかった気がする・特別扱いでなく、“普通”に接する

ほうが嬉しい、気が楽なのだと思った・自分の心の性として生きようと思っても、戸惑うことや迷うことがあるのだと思った、その中で友達というのはとても支えになる大切な存在だから普通に接することが大事なのだと思った

④LGBTs について「学ばなければいけない」と思っていたが、それを学んだうえで LGBTs の概念がない社会にしなければいけないと思うようになった・LGBTs であると公言している人が周りにいた経験がないのでどんな扱いを受けているかは何となくのイメージしかなかったが、インタビューを見てから具体的に想像でき、いじめや自殺未遂の経験率なども知って少し身近になった・学年では約 30 人、クラスでは約 3 人 LGBTs がいる可能性があるという話もあったが、もし実際にいても快く受け入れようと思う・LGBT について、これといったアクションは起こさなくていいとわかった・LGBTs に関係なく、人への興味が強くなった・大阪府や高津高校という単位で考えるとたくさん LGBTs が存在するのがわかり、意識が高まったように感じる・性的マイノリティというのは決して特別なものではないし、自分もそうなのかもしれないと、性に対する見方が変わった

⑤性に関して悩んでいる人に対してどう対応したらいいのかは個人によって違うのか疑問に思う

３．結果

「自分もそうかもしれない、と性に対する見方が変わった」「LGBTs について知ったうえでその概念がなくなるような社会にしなければならないと思うようになった」など講義の前後で生徒の意識に変化が見られた。セクシュアリティの多様性を理解したことで、LGBTs が特別な存在ではないと認識できたと思われる。

４．考察

セクシュアリティの多様性、当事者の生きづらさを具体的な数字やインタビュー動画で知ることで LGBTs を身近に感じ、理解がより深まったのではないだろうか。

５．まとめ

LGBTs が特別視されない、誰もが生きやすい社会にするには、私たち高校生のみならず、子どものうちからセクシュアリティの多様性を理解するための教育が必要である。「LGBTs という特別な人も存在している」ではなく、「人間は一人ひとり違うので、LGBTs も含めて様々な人がいるのが当たり前だ」という認識の社会になることを望む。インタビュー映像への感想の「普通に接するのがよい」というような、LGBTs への一概に正しい対応というものはないことに気を付けたい。

校内発表後、SOGIESC について尋ねられることがあり、今回の研究・発表で本校生徒の LGBTs や性への関心を深められたのではないかと考えられる。私自身も以前より LGBTs に関するニュースなどを見聞きするようになり、関心や知識が一層深まったように感じる。

また、その後の GLHS 生徒課題研究発表会での講評から大人の意識変化も今後の課題であることが改めてわかった。今回の研究だけで終わらず、引き続き LGBTs やジェンダーについて積極的に知り、行動していきたい。

６．参考文献ならびに参考 Web ページ

森山至貴著（2017）LGBT を読みとく：クリア・スタディーズ入門　㈱筑摩書房発行
淀川区,阿倍野区,都島区(2015) 性はグラデーション～学校の安心・安全をどうつくる?どう守る?～
日高庸晴著(2016) ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート 2015
大阪市(2019) 大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート